

井上さん日本写真学会東陽賞受賞

飛鳥藤原宮跡発掘調査部で発掘現場や遺物の写真撮影を担当している井上直夫さん（専門職員）が、日本写真学会より東陽賞を授与されました。この賞は、日本で最初に写真工業社を興した菊池東陽氏にちなみ、写真技術の応用・普及、写真教育などに顕著な貢献をした学会員に対して毎年一人に贈られているものです。受賞理由は、埋蔵文化財の写真撮影と保存に関する技術開発に長年努めてきたこと、および『埋



キトラ古墳壁画撮影に臨む井上さん（右）

文写真研究』などの著作や講演を通じて埋蔵文化財撮影の教育普及活動に大きく貢献したことです。なかでも家庭用のデジタルカメラに小型蛍光灯と手作りの特製カメラスタンドを組み合わせ、キトラ古墳石槨内の壁画撮影に成功したことは、記憶に新しいところです。手近で安価な材料を用いて撮影時の様々な障害を克服していくのが井上さんの技術開発の真骨頂で、その創意と工夫には定評があります。また、教育普及の面では、埋蔵文化財センターの文化財写真課程研修・報告書作成課程研修の講師を務め、井上流を全国に広めてきました。

日本写真学会賞授賞式は、中央大学で5月22日に開催されました。井上さんは「文化財写真の現状」と題して記念講演をおこない、埋蔵文化財写真に対する日本の公的機関の認識の低さや予算と人員の少なさ、文化財記録をデジタルデータでなく銀塩写真画像で残すことの意義と重要性を訴え、大きな反響を呼びました。今回の受賞を契機に、文化財写真に対する評価と理解が深まることを願ってやみません。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部 竹内 亮）